

# 放射性物質の存在するホダ場にホダ木を伏せ込むとどうなるか —伏せ込んでから約3年間の放射性物質濃度の変化—

## 1 はじめに

林業技術センターでは、原子力発電所事故により放射性物質の降下した林内ホダ場に、事故当年に放射性物質の付着していないホダ木を伏せ込んだ場合の放射性物質濃度（以下「濃度」）の変化を調査してきました（林業技術情報No55、58）。3年間の調査が終了しましたので結果を報告します。

## 2 調査方法と結果

【方法】調査を行ったホダ場の所在、樹種等を表に、空間放射線量率マップ上（文部科学省 出典「放射線量等分布拡大サイト／電子国土」）における位置を図-1に示します。

平成 24、25 年の調査方法は既報（林業技術情報 No55、58）をご覧ください。平成 26 年は、5～10 月に調査地当り 10～64 本のホダ木を採取し、上部と下部にわけて濃度（含水率 12%換算）を測定しました。また、平成 26 年 4～5 月に No4、5 調査地の子実体を採取して、乾燥後粉碎し、乾燥重量の 4.7 倍量の水を加えて濃度を測定しました。

【結果】図-2にホダ木と子実体の濃度を示します。相対的な低線量地域に位置する No3、4、5 の立て木（地面に接したホダ木）は、約 3 年経過してもホ

ダ木の濃度は指標値の 50Bq/kg を、子実体の濃度は基準値の 100Bq/kg を下回っていました。対して高線量地域に位置する No7 の立て木は指標値を超過し、立て木から発生する子実体も基準値を超過しました。しかし、同じ高線量地域であっても、No6 や No7 の横木（地面に接しないホダ木）は指標値を超過せず、横木から発生した子実体も基準値を超過しませんでした。

## 3 成果の活用

「空間放射線量が0.1 μSv/hを超える高線量地域のホダ場で、ホダ木を地面に直接接するように伏せ込んだ場合」にホダ木や子実体の濃度が指標値や基準値を超過しました。

原木シイタケの露地栽培ではホダ木を地面に接して伏せ込みます。地面に接して栽培する場合に、ホダ木の濃度の上昇を抑えるため、どのような対策をとれば良いかを次報（林業技術情報 No73）で報告します。

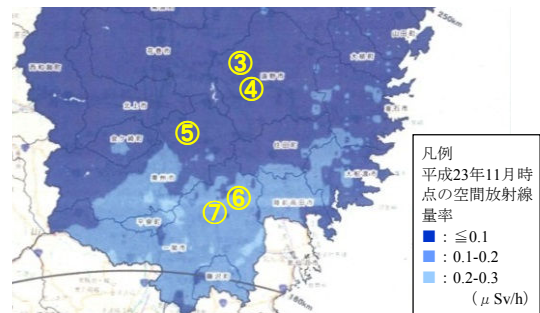


図-1 空間放射線量率マップ上の調査地の位置  
③④⑤：0.1 μSv/h以下の地域、⑥⑦：0.1～0.2 μSv/hの地域

表 調査地の所在、樹種、伏せ方、在ホダ場期間

No	市町村(旧)	ホダ場樹種	伏せ方	在ホダ場期間		
				24年	25年	26年
3	宮守町	スギ	ムカデ	17か月	24か月	—
4	宮守町	アカマツ	ヨロイ	2か月	9か月	25か月
5	江刺区	広葉樹	ヨロイ	12か月	22か月	37か月
6	大東町	スギ	井桁	17か月	23か月	38か月
7	大東町	広葉樹	ヨロイ	18か月	25か月	36か月

\*No3の平成26年は、ホダ木廃棄のため調査しなかった

\*No4は、水田跡地での裸地伏せ15か月の後に林内ホダ場に伏せ込んだ

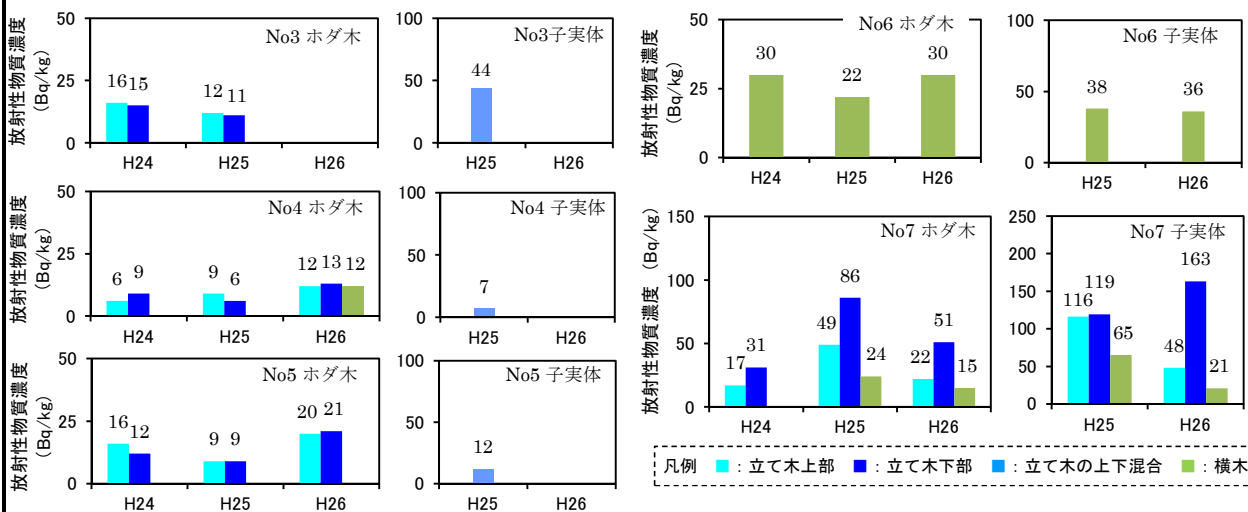


図-2 ホダ木、子実体の放射性物質濃度 (平均)

棒グラフの無い部分は、検体を採取できないなどの理由で調査しなかったことを示す

(担当 研究部 上席専門研究員 高橋健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
岩手県林業技術センター  
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536  
FAX 019-697-1410